

年功賃金の行動経済学

行動経済学研究センター開設記念シンポジウム

大阪大学社会経済研究所

大竹文雄



*Institute of
Social and Economic
Research*

Osaka University



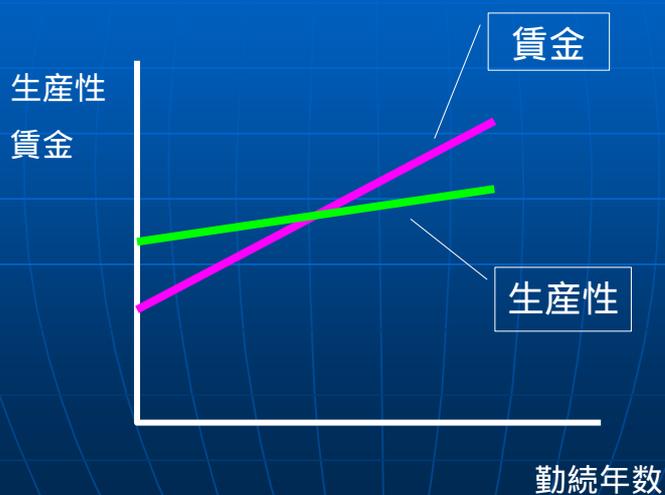
年功賃金と宝くじ型賃金

- なぜ年功賃金が存在するのか？
- 宝くじ型の賃金制度はうまくいくのか？

年功賃金の3つの標準的説明

- 年功賃金 勤続年数が長くなると賃金があがる
- 3つの標準的説明
 - 人的資本理論
 - 勤続とともに能力が上がる
 - インセンティブ仮説
 - 怠けさせないため
 - 生計費仮説

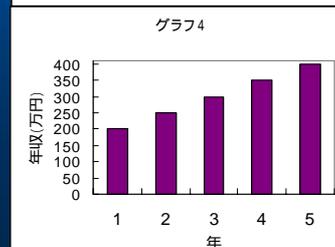
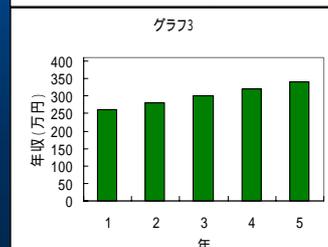
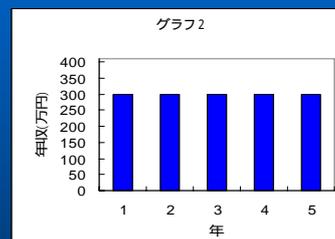
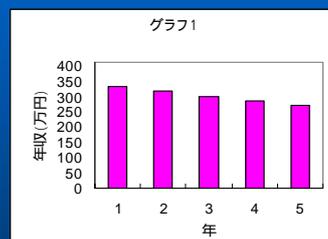
インセンティブ仮説

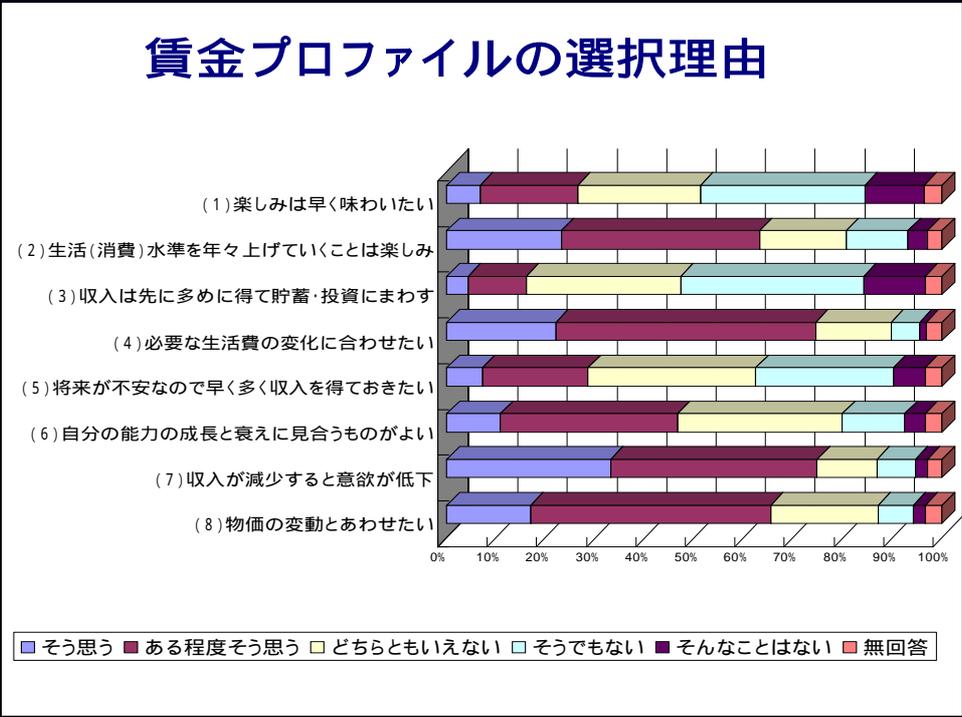
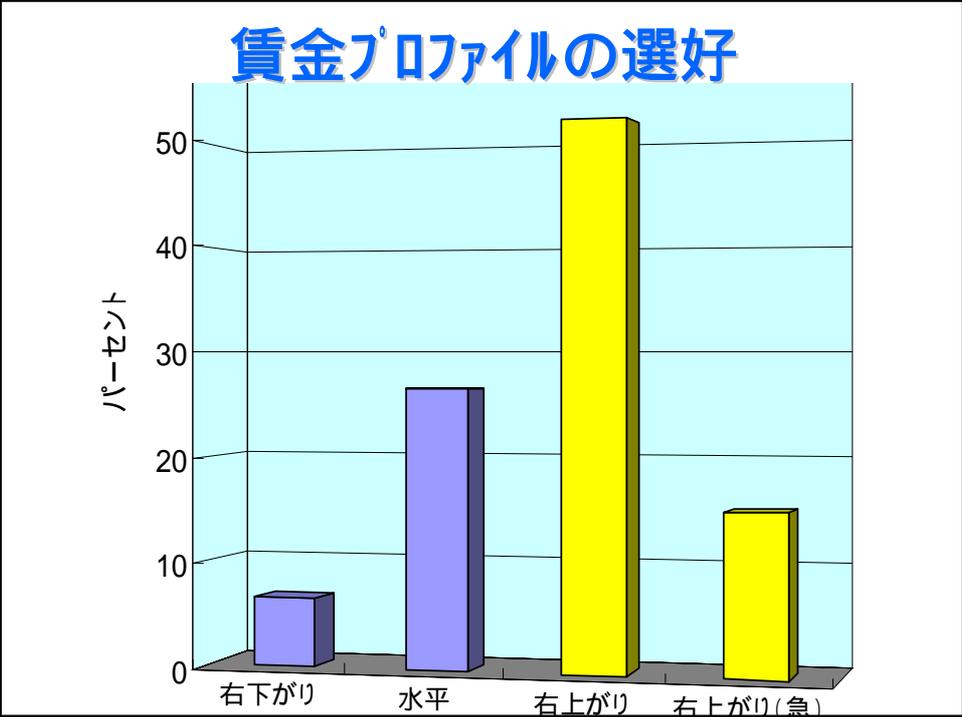


行動経済学的説明

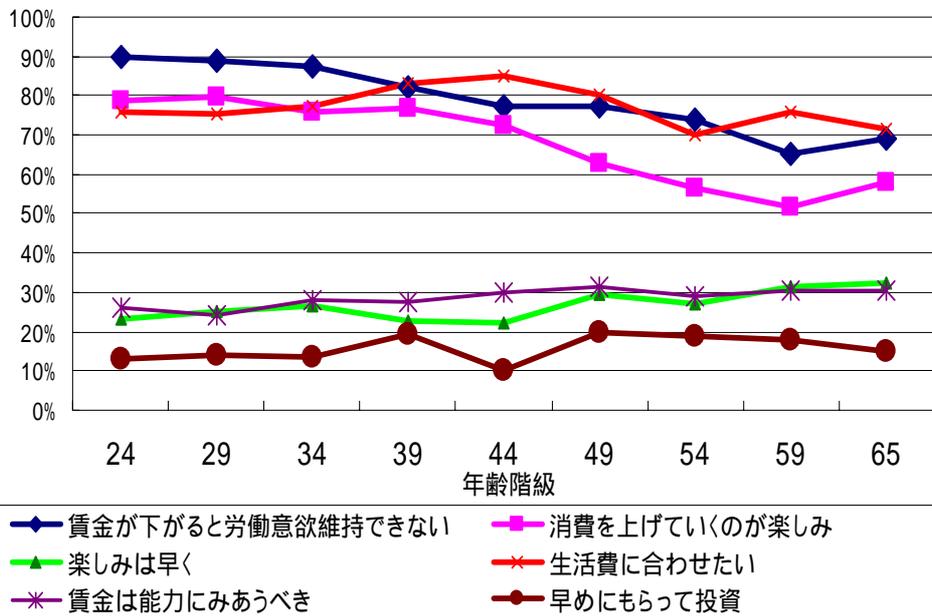
- 将来の生活費の上昇を予想した上で無駄遣いしないように自己規制(コミットメント手段としての年功賃金)
- 消費の増分から効用を得る + 自己規制
- 将来の豊かな消費への期待から効用を得る
- 賃金と自分への評価を関連づけて考える

問17 **賃金収入の変化の仕方**について、あなたの好みをうかがいます。(現在働いていない方は、働いていると想定してお答えください。) **今後5年間**にあなたが受け取る年間賃金収入の変化の仕方が、以下のグラフのように4種類あるとき、あなたにとって最も好ましいのはどれですか。以下から1つ選び、その番号に をつけてください。 **総額は全ての場合で同じ1500万円**です。





年齢階級別賃金プロフィールの選択理由



まとめ(1)

- 年功賃金を好むのは
 - ・ 消費が上がっていくことを好む人・賃金が下がると労働意欲を維持できない人
 - ・ 「贅沢を知ると戻れない」ということを知っているが、お金を先にもらうと使ってしまうことも知っている人
 - ・ 賃金が下がると自分への評価が下がったと考える人

まとめ(2)

- 年功賃金を嫌うのは
 - ・ 楽しみを早く味わいたい人、自分で投資したい人
- 若い人は年功賃金を好み、年齢が高いとその比率は低下

宝くじの謎

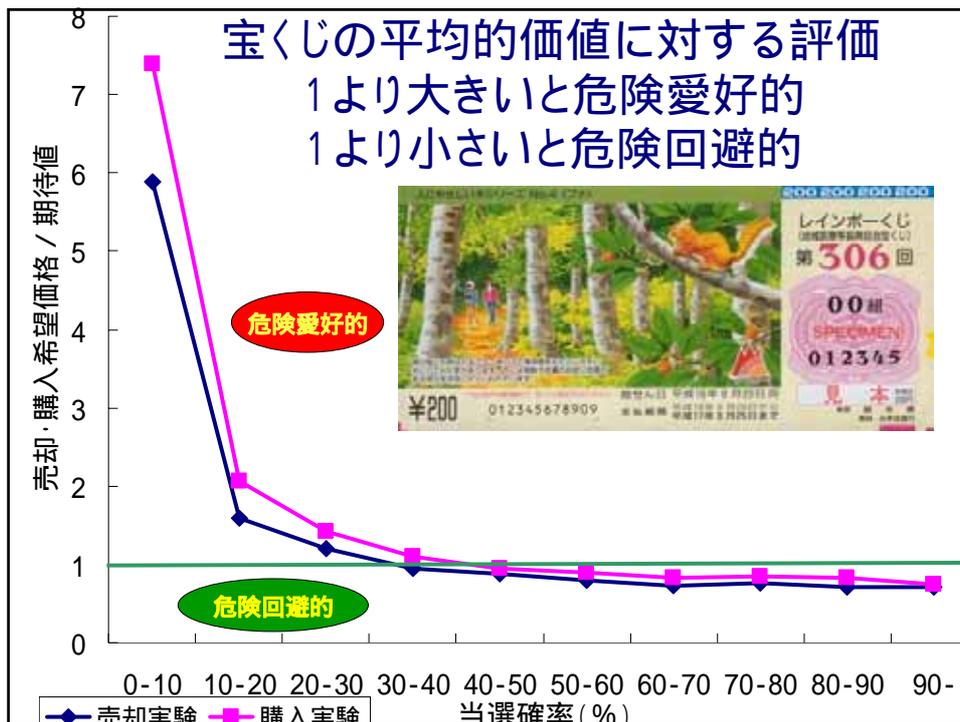
- 人々は不確実なものよりを確実なものを好む
保険をかける 危険回避的行動
- 宝くじは平均的には損をするにも関わらず多くの人は宝くじを買う

成功報酬(宝くじ)型賃金

- 多くの研究プロジェクトの中からたまたま成功する場合に、極端な成功報酬型の賃金制度は技術者にとって危険ではないか？
- 中村修二氏の200億円報酬判決に対して技術者の間に高い支持があるのはなぜか？

阪大の宝くじ実験

- 2004年3月2日および6日
- 「くじ」を捨て、その価格をつける売り実験と、「くじ」を購入する際に価格をつける買い実験
- 当たったら1000ポイント、はずれたら0ポイントのくじを売ってもよいと考える最低価格をつける 1000ポイント = 250円で換算
- 学生ではなく、有業者被験者と高齢者被験者(計63名)



実験結果

- 危険回避度は「くじ」の当選確率によって異なる
 - ・ 当選確率が30%以下の「くじ」に対して危険愛好的に振る舞う(一か八かに賭ける)人が多く、それ以上当選確率が高い「くじ」については、危険回避的に振る舞う人が多い。
- アメリカ・中国・カナダでの実験
 - ・ 危険愛好的だが当選確率が低いほど危険愛好的な度合いが高まる
- テレビでのクイズ番組(例:ミリオネア)の結果を使った分析
 - ・ 人々は危険回避的(高額賞金・ある程度高い当選確率)

実験結果の解釈

- 低い当選確率の場合は、人々は当選確率を過大に評価してしまう
- 当選確率が低いと期待値も低くなるため、ギャンブルをするコストが低くなる ギャンブルを楽しむ

宝くじ実験と現実

- 当選確率が低く、期待値では損であるのに、宝くじを買う 宝くじを政府の財源
- 技術者の成功報酬 成功率が極端に低い技術開発の報酬を宝くじ型にする
- 給与から成功報酬ファンドに積み立て、技術開発が成功した場合に巨額報酬を技術者に支払う

ご静聴ありがとうございました